

平成26年度第3回 鹿児島市清掃事業審議会 概要

1 開催日時

平成26年12月4日(木) 10:00～11:50

2 開催場所

東別館 特別中会議室

3 出席者

(1) 委員(12名)

赤崎委員(副会長)、赤星委員、有馬委員、井上委員(会長)、榎本委員、大前委員、鬼塚委員、小松委員、瀬戸山委員、藤安委員、三原委員、向段委員

(2) 事務局(9名)

環境局長、清掃部長、リサイクル推進課長、廃棄物指導課長、清掃事務所長、北部清掃工場長、南部清掃工場長、リサイクル推進課庶務係長、同課ごみ減量係長

4 次第

(1) 報告事項

①家庭ごみ有料化の効果・課題等について

(2) 審議事項

①市清掃事業審議会のごみ減量施策に関する基本的な考え方について

【参考】本市のごみ減量施策に関する意見の集約結果について

(清掃事業審議会、市清掃部ワーキンググループ)

(3) その他

5 報告事項及び審議事項の概要

(1) 報告事項

①家庭ごみ有料化の効果・課題等について

発言者	発言内容
委員	(薩摩)川内市の衛生自治体連合会と話す機会があり、(薩摩)川内市では、ごみ袋が指定袋となっているようで、ごみの減量化をするうえで効果が高く、また、指定袋は、衛生自治体連合会が販売していると聞いた。
委員	資源物を有料化の対象ごみとすると、限りある資源が損なわれてしまうのではないかと思う。
事務局	資源物を有料化の対象にしている都市と対象にしていない都市がある。委員の意見のとおり、資源物はリサイクルされ、有効活用され

発言者	発言内容
委員	<p>るべきと考える。資源物の指定袋は、一般のごみの袋と料金を変える方法をとっている都市もある。一方、資源物を有料化しなくなった場合は、一般ごみが資源物に混在される懸念がある。資源物は、ごみステーションの回収だけではなく、集団回収という方法もあるのではないかと考えている。資源物の適正な収集について、今後の課題として、議論をしていただきたいと考えている。</p> <p>昨日、八幡校区コミュニティ協議会で、ごみ出しの意見交換会をした。そのような会をこまめに開催しないと、実が結ばないと思う。</p>
委員	<p>先ほど委員が話した荒田地区と違って、私の居住区は高齢化が進み、町内会が崩壊しており、町内会の活動が活発な地区は集団回収が可能だが、町内会によっては難しいかと思う。</p>
事務局	<p>ごみステーションの管理や集団回収は、地域のコミュニティのあり方にも関わっており、市民局や健康福祉局とも連携を図っていきたい。</p>
委員	<p>先日、小型家電を回収するパンフレットを頂いた。回収可能なものや回収ができないものを家族で話し、子供の社会勉強になるかと思う。</p>

(2) 審議事項

①市清掃事業審議会のごみ減量施策に関する基本的な考え方について

【参考】本市のごみ減量施策に関する意見の集約結果について

(清掃事業審議会、市清掃部ワーキンググループ)

発言者	発言内容
委員	<p>只今、事務局から説明があった。資料の4ページから5ページの「参考資料」は、清掃事業審議会の意見と市の内部で構成されているワーキンググループの意見を取りまとめたものである。これを受けて、当審議会の意見をまとめたものが、資料の3ページの「審議資料①」である。本日の会は、「審議資料①」に委員の皆さんの意見を付加し、次回の審議会での提言案とする。提言案がまとまったら、審議会の提言として市長に提出することになる。それでは、委員の皆さんから意見をいただきたいと思います。が、「審議資料①」の左側にある「本市のごみ処理の現状と課題」について、審議していただきたい。</p>
委員	<p>中核市で、鹿児島市は大きい方であり、市が大きいということは、</p>

発言者	発言内容
委員	<p>ごみ量も多くなる。ごみを減量するための方法は、幾らか払ってもらって行く方向（有料化）にもっていくのが、当然であろうかと思う。</p> <p>今の委員の意見を踏まえて、資料に「他の中核市と比較しても、ごみの排出量が多い状況にある。」と記載があるが、その下辺りに、「他の中核市ではごみの有料化を実施して、効果をあげている。」と注釈として記載したらどうか。</p>
事務局	<p>九州の県庁所在地でごみの有料化を行っていないのは、本市と長崎市だけであるため、中核市よりも九州の県庁所在地のほうが、インパクトがあらうかと思う。</p>
委員	<p>ごみを減らさなければならないということは、我々は当然のよう受け止めがちであるが、何故、必要であるかということと2つ説明が出来る。1つは、地球環境の問題であり、自分たちもだが、次の世代をどうするかということにある。もう1つは、最終処分場の問題とっており、最終処分場を新たに作るとなると、大変なコストがかかり、また、住民の合意形成も大変なことである。従って、最終処分場を1年でも延命させる為にも、我々は努力する必要があるということに触れるのも良いのではないかと考える。</p>
委員	<p>ごみ処理の費用の増大をいかに抑えるかということは、最終処分場や焼却施設を延命させることも必要であらうかと思う。地球環境の問題で言えば、次世代の為の今の世代の責任を資料に記入したほうが良いのかもしれない。今の2点の意見について、市長の提言に盛り込んでいく。</p>
委員	<p>資料の「(3) 市民の合意形成」にある「①本市のごみ減量や環境に対するビジョンを市民に説明すること」についてだが、環境未来館では子供も学ぶが、大人も学べる。環境未来館の料理講座のなかで、水切りの説明をするなど、学びながらごみ減量のことを説明するのも方法かと思う。折角の市の施設なので、うまく活用すべきである。</p>
委員	<p>他の組織、部門と連携していくことは大変、重要なことである。鹿児島市には、色々な施設があるが、それらが機能しているかということと首を傾げてしまう。使える施設をうまく活用していく、特に、環境未来館は活用施設として当然である。</p>
事務局	<p>情報提供の具体的な取組みとして、地域公民館や環境未来館などで</p>

発言者	発言内容
委員	<p>開催される料理教室に出向き、水切りの必要性などを説明していくと 考えている。</p> <p>広報活動としては、学校での教育が大切である。小学生の幼い時期 に、ごみの意識を持たせることが大事であり、意識を持った子供は、 やがて、意識がある大人に成長する。しかしながら、今の教育には、 今、話したようなことを教える場がないと思う。資料に、ワーキング グループでの意見として、「PTAや老人クラブ等の各種団体の会議 等に出向くなど、対象者を限定した広報を実施」とあるが、子供であ ろうが高齢者であろうが関係なく、対象を幅広くすべきである。ごみ 事のことを題材にした授業をすることで、意識を持った子供になっ て、その子らが自慢げに、親にごみのことを話すかと思う。</p>
事務局	<p>資料に、広報対象として老人クラブ等と記しているが、委員の指摘 のとおり、子供の頃からの教育は大切である。実際、母親と幼児を対 象とした出前トークであるとか、また、学校においては、副読本を配 って、授業で活用していただいている。資料の記載については、委員 の指摘どおりに変更する。</p>
委員	<p>小学校では、環境未来館やごみ処理場の見学に、必ず、行くことにな っており、学校の授業のなかに取り込まれている。これまで何故、 子供たちがコミュニティから離れていったかという点、以前は、子供 たちが地域のソフトボール大会などに参加していたが、今は、幼い時 期から水泳スクールとか、野球やサッカーのクラブチームに所属して おり、土日はクラブチームなどの大会に参加するので、土日の学校や 地域の活動に参加が出来ず、集団回収にも参加ができていない。</p> <p>以前、住んでいた所で有料化になった際、大学の方が協力的で、そ この学生も協力的になり、地域の活性化に繋がった。</p>
委員	<p>方向性としては、学校のなかで知識として覚えるのではなく、実践 をとおして、ごみの分別・収集のやり方を覚えていくことは、大変重 要なことだと思う。支援するボランティアの組織ができて、活動が活 発になったら、新たな展開ができる。有料化となった時に、その収入 を如何に有効的に使うかが議論となってくる。ごみの収集に協力する ボランティアを支援するための資金に使うとか、有料化によって得た 収入をどのように市民に還元するかが重要である。</p>
事務局	<p>集団回収は各地域で実施しているが、集団回収を実施する場合は、 定期的が必要なことであり、例えば、月に2回、決まった場所で</p>

発言者	発言内容
委員	<p>集団回収をしているとして、そのことが市民に浸透したら、回収量は増えるかと思う。定期的に集団回収を行う団体には、有料化のなかでの補助制度のあり方を考えるべきかと思う。スポーツ少年団などが、集団回収を手伝っているところもあり、委員の意見のとおり、地域コミュニティの育成の立場からも、取り組みについて議論していただき、良い方向性にいけたらと考えている。</p> <p>有料化以外のごみ減量施策である生ごみ対策で、補助金制度があるが、大型店舗でコンポストを購入した際、コンポストが店舗の隅に配置しており、店員に使い方を尋ねたところ、分からないとのことであった。ダンボールコンポストの使い方の説明を店舗と協同で行うとか、また、町内会において、ダンボールコンポストの使い方を説明できる機会があれば、ダンボールコンポストや生ごみ処理機が普及するかと思う。3Rの本があるが、その本が最大に活用されたら、分別が進むと思う。</p>
委員	<p>有料化となった際に、料金の徴収が具体的になっておらず、どのようになるのか危惧している。今のごみの管理は、現実的に町内会が担っており、有料化に際しての説明は、町内会を利用してはどうかと思う。子供へのごみの教育も大事だが、町内会へのごみの啓発も必要であると考えます。</p>
委員	<p>一番有力な説明のルートは、町内会であろうかと思う。今、議論している委員の皆さんの共通の認識は、有料化であろうと思っているが、有料化をするためには、どうするのか。有料化には、様々な課題があり、課題を整理して、どのように向き合っていくのか。更には、有料化となった際に、どのようなルートで制度を説明するのか。只今の委員の意見は、有料化となった際に、町内会を活用して、制度の理解や普及に努めていくとの提言であった。</p>
委員	<p>建物によって、管理が行き渡っている所と管理が行き渡っていない所が、見受けられ、全体的なマナーを高めることが必要であろうかと思う。私は消費生活の相談を受ける立場であるが、仕事に追われている世代は、ごみに関することに接する機会がないかと思う。以前あった相談の例として、退職した方がごみの出しマナーの相談があった。働く層への啓発を工夫していく必要があると感じている。</p>
委員	<p>色々な意見が出てきているが、大きなものは、有料化によるごみ減量施策である。今まで、ごみ減量施策として、有料化以外のことを実</p>

発言者	発言内容
委員	<p>施してきた。しかし、それだけでは効果が現れないという認識のもとに、いよいよ有料化に踏み出し始めないといけない状況になってきた。これまでどおり、有料化以外のごみ減量施策を継続して行くことは、当然のことである。ここからは、有料化の施策について、集中的に審議していただきたいと考えているので、委員の皆さんにお願いする。有料化に対する意見はないか。</p> <p>有料化を軸にすることは必要なことであると考え。それは、一般の方に負担感を直接、与えることなり、ごみを出すことを減らす誘導になる。しかし、負担感があまりに大きいと不満とかになっていく。今、意識の向上が議論されているが、それは弱いと思う。このような行動をとったら、これだけ削減できますよというように、具体的な対策集なるもので、情報を提供したらどうか。ごみを減らす際に、減らしにくいものもある。例えば、スーパーマーケットで、魚や野菜を購入する際に、品物がトレーに入っている。このトレーは自宅に持って帰ると確実に、ごみになる。そのトレーを拒否しようとしても、トレーに入っていない品物を選択出来ない社会になっている。市民に対する負担だけではなく、事業者に対しての政策も組み合わせる考えていかないと、一般市民の負担ばかりが増えてしまう。このあたりの政策の議論も必要ではないかと感じる。</p>
委員	<p>大局的には、今の意見を踏まえていかないと、家庭ごみの減量に繋がっていかない部分があるが、即、実施が出来ないことも事実であるので、家庭から排出されるトレーを前提での有料化を進めざるを得ない。</p>
委員	<p>今の話に関連して、今はスーパーなどのレジ袋でごみを出せるが、有料化になったら、レジ袋はごみになってしまうので、マイバック運動を進めるとか、様々なやり方を併せて説明すべきある。</p>
委員	<p>有料化となったら、袋を使わないようになり、ごみの全体量が減るかと思う。ごみの全体量を減らすために、例えば、生ごみの水切りをすることや、レジ袋を使わないようにするためにマイバックを使うことなど、ごみ減らすためのヒント集を作って、示すことも一つ方法であると思う。有料化になったら、お金を出したくないので、ごみを出したくなくなると思う。今の2名の委員からの意見のとおりで、ごみを出さないために、具体的な事例集を作成して配ることは、大変、重要なことであるので、準備をお願いします。</p>

発言者	発言内容
委員	<p>有料化の導入にあたっては、地球の環境問題や最終処分場の延命の問題が、第一にあがってくると思う。鹿児島市も高齢化が進んでおり、ボランティアによる高齢者の手助けを行う方法も検討していただきたいと思う。</p>
委員	<p>有料化して入ってくる収入をボランティアの育成のために、使うことも一つの方法かと思う。</p>
事務局	<p>本市のごみはステーション収集となっており、大体、20世帯に1のステーションがあるので、100メートルから150メートル歩いた所に、ごみステーションがあることになる。ただ、高齢者のみの世帯は、ごみ袋が重くて、自分でごみステーションまで持っていくことが困難であろうかと思う。他都市においては、戸別収集という方法があるが、収集費用がかかってしまう部分もある。今、委員が言った介護が必要な方のみの世帯や高齢者のみの世帯は、戸別収集を行うことも一つ考え方と思う。ボランティアよりは、今、言ったことが具体的かと思う。</p>
委員	<p>鹿児島市外に住まいの方からは、鹿児島市は良いなとよく言われ、有料化でなく、よくやっているとされる。町内会などに浸透していったら、大きな問題にならず、仕方ないと諦めてしまうのではないかと思う。この有料化の道は、避けられない状態であり、発言が出来る場所で、有料化の方向に進んでいる状況ぐらいを知らせるのは、構わないのではと思う。</p>
委員	<p>それぞれの立場で、決まったということではなく、事実として、有料化が議論されていることを伝えることも重要であると思う。</p>
委員	<p>有料化は避けられないし、有料化のための広報活動が大事であると思う。</p>
委員	<p>廃棄物の世界では、PPPという考え方がある。汚染者負担原則のことであるが、単純に言えば、ごみを出した人が責任を持つということである。ごみは誰が出しているかということ、一般市民が出しているもので、責任は市民にあることになる。社会生活を送るなかで、我々が全てを処理することが出来ないのも、市にお願いしているということが正しいと思う。市民が協力しなければならないのではなく、市民が主体的に取り組むべきであり、故に、市と協力してしましようが正しいと思う。</p>

発言者	発言内容
委員	市民が市の施策に協力するのではなく、市民もごみの減量に取り組む努力をする必要があるということである。
委員	ごみに対する一般市民の考え方は、他人の家からごみが飛んできたような扱いになっている。自分たちが生活していくうえでの副産物としての認識を持っておらず、自分の家を出たごみは、市が収集してくれるものという考えで、ごみを出す。物を買う時は、一生懸命に見比べて買うのと同じように、出すごみにも愛おしさを持って出すべきだ。このようなことは、常日頃から町内会でも話している。
委員	今の議論の中で重要なことは、我々が地域社会の中で生きていくために、出さざるを得ないごみだが、本来、ごみを出した者が処分しなければならないのが前提である。これは市民としての意識の問題であり、大きな枠組みのなかで、理解していただくのが重要な課題である。不特定多数の人が、ひとつの地域のなかで円滑に、また、安全で快適な生活を営んでいくうえでは、行政というものが、市民生活を支えるために、様々な行政サービスをして、その一定の負担を市民はしていく。そのような考えを子供のうちから理解するような活動を行政にお願いしたい。
委員	今日は、ごみ収集の有料化について、議論した。今日の議論の中で、確認したいことがあるが、今後、ごみを減らしていくためには、有料化も止むを得ないということが、本審議会の共通の認識であると理解していいか。
全委員	はい。
委員	その有料化に向けての様々な課題について、今日は議論し、対応策についての意見をいただいた。同時に、有料化以外のごみ減量施策についても、当然のことながら、実施していくことも本審議会での共通の認識であると理解していいか。
全委員	はい。
委員	それでは、今日の様々な意見を踏まえて、今後は、審議会としての提言案を作成するということになる。この提言案の作成については、私と事務局で、たたき台を作成させていただきたいと思っている。たたき台といっても、慎重に検討する必要があるため、2月程度の時間を要すると思う。そのたたき台が出来たところで、委員の皆さんから

発言者	発言内容
	<p>意見をいただき修正して、提言案として仕上げる。それを正式な審議会に諮り、そこで承認を得たうえで提言として、市長へ提言書を提出する手順になる。今の流れは事務局で、再度、確認して頂きたい。</p> <p>今日の議論は、これで終了する。</p>

(3) その他

発言者	発言内容
	<p>(事務局から、次回の清掃事業審議は、平成27年3月上旬に開催を予定していることが報告される。)</p>